

水害へ備え新たに 常小中の始業日に防災学習



常総市は3日、市立19の全小中学校で水害を想定した防災学習を実施した。3年前に発生した鬼怒川などの水害で逃げ遅れた市民が大勢いたことから、洪水への備えと危機意識を高めるのが狙い。全児童・生徒約

4800人が参加した。防災学習は9月1日の「防災の日」に合わせ、水害のあった翌年から実施。今年は2学期が始まる3日に全校一斉に行われた。水海道中では「鬼怒川が危険水位を超えた」とする

避難所開設訓練で避難者の受け付けを担当する生徒（左）
常総市小戸町の市立水海道中

校内放送を受け、生徒たちが校舎3階に移動。「垂直避難」と呼ばれる逃げ方の訓練で、その後、3年生は地元の被災者支援団体「ジュントス」や地元住民の協力を得て、避難所開設訓練を行った。

生徒たちは、受け付けや居住区設営など5班に分かれて活動。武道場に段ボールベッドや登山用エアクッションを並べたほか、体が不自体な人や乳幼児のスペースも、別の部屋に用意した。準備が整つと、避難者役、運営者側の両方を各自が体験した。

受け付けを担当した塚本陽菜さんは「一度経験しておく、自分たちでも力になれると思った」と感想を述べ、ジュントスの横田能洋代表(51)は「地域には自力で避難所に来られないお年寄りもいる。中学生には、そういう人たちにも声をかけ、一緒に避難できる人になってもらいたい」と期待していた。（今橋憲正）